

平成 24 年度(2012)事業報告書

〔 自 平成 24 年(2012) 4 月 1 日
至 平成 25 年(2013) 3 月 31 日 〕

当財団は、「産業、経済、文化の発展に貢献する科学技術、芸術等を中心とする分野で著しい貢献をした者の顕彰、研究又は普及啓発に対する助成等を通じてその促進を図ると共に国際相互理解の増進に努め、もって社会の啓発に貢献し、人類の平和と繁栄に寄与する。」ことを目的として、昭和 59 年(1984)4 月 12 日に設立された。

昭和 60 年(1985)に第 1 回京都賞授賞式、第 1 回研究助成金贈呈式を開催して事業を開始、また、平成 23 年(2011)4 月 1 日に公益財団法人の認定を受け、新公益法人制度に基づいた運営を開始した。

平成 24 年度事業計画 重点施策

I. 顕彰事業

1. 第 28 回(2012)京都賞受賞者を決定し、授賞式にて次の 3 賞を授与する。
先端技術部門 : 情報科学
基礎科学部門 : 生命科学 (分子生物学・細胞生物学・神経生物学)
思想・芸術部門 : 思想・倫理
2. 第 29 回(2013)京都賞に向け、候補者推薦の受付及び審査選考を開始する。
3. 第 30 回(2014)京都賞に向け、審査機関委員を決定する。

II. 助成事業

1. 平成 24 年度(2012)研究助成として、贈呈式にて研究助成金を贈呈する。
2. 平成 25 年度(2013)研究助成に向け、申請書の受付及び選考を行い、助成対象者を決定する。
3. 平成 26 年度(2014)研究助成に向け、選考委員を決定する。
4. 平成 24 年度(2012)特別助成として、研究機関の事業援助及び国際相互理解増進のため、助成対象案件について審査及び助成を行う。
5. 平成 25 年度(2013)特別助成に向け、審査委員を決定する。

III. 社会啓発事業

1. イナモリフェローに対し、研修等を実施する。
2. 米国「倫理と叡智のための稲盛国際センター」の活動を支援する。
3. 国際相互理解の増進及び学術振興に寄与する活動を行う。

I. 顕彰事業

1. 第 28 回 (2012) 京都賞受賞者の決定と発表

(1) 京都賞審査機関による審査

国内、海外の有識者より推薦された候補者について、平成 23 年度に開催された各部門専門委員会及び審査委員会に引き続き、京都賞委員会を開催し、受賞候補者の審査を行った。

(2) 受賞者の決定と発表

平成 24 年 6 月 22 日開催の定時理事会において、第 28 回 (2012) 京都受賞者を下記の 3 氏に決定し、同日記者会見を行なって発表した。

①先端技術部門受賞者

アイバン・エドワード・サザランド博士 (Dr. Ivan Edward Sutherland)

職 業：コンピュータ科学者

ポートランド州立大学 客員研究員

国 籍：アメリカ

贈賞理由：

「コンピュータグラフィックスと対話的インタフェースにおける先駆的業績」
情報提示のためのコンピュータグラフィックス技術と、それを用いて、プログラミングすることなくコンピュータを使うことのできる対話的インタフェースの発展に先駆的かつ根幹的な貢献を行った。

②基礎科学部門受賞者

大隅 良典 博士 (Dr. Yoshinori Ohsumi)

職 業：分子細胞生物学者

東京工業大学 特任教授

国 籍：日本

贈賞理由：

「細胞の環境適応システム、オートファジーの分子機構と生理的意義の解明への多大な貢献」
細胞が栄養環境などに適応して自らのタンパク質分解を行う自食作用「オートファジー」に関して、酵母を用いた細胞遺伝学的な研究を進めて世界をリードする成果をあげ、その分子機構や多様な生理的意義の解明において、多大な貢献を果たした。

③思想・芸術部門受賞者

ガヤトリ・チャクラヴォルティ・スピヴァク教授

(Professor Gayatri Chakravorty Spivak)

職 業：文芸批評家・教育家

コロンビア大学 ユニバーシティ・プロフェッサー

国 籍：インド

贈賞理由：

「知的植民地主義に抗う、開かれた人文学の提唱と実践」

「脱構築」理論を政治・社会的な次元へと移し換え、グローバル化の席卷する現代世界において再生産されつつある知的植民地主義に抵抗してきた。比較文学をベースとする独自の人文学の提唱と多面にわたる教育支援の活動は、現代知識人のあるべき姿を示している。

(3) 京都賞審査機関委員の公表

受賞者の発表に併せて、第28回(2012)京都賞審査機関委員を下記の通り公表した。
(役職は公表時現在)

[京都賞委員会]

中西 重忠 (委員長)	公益財団法人大阪バイオサイエンス研究所 所長
甘利 俊一	理化学研究所 脳科学総合研究センター 特別顧問
巖佐 庸	九州大学 大学院理学研究院 教授
梶山 千里	福岡女子大学 理事長・学長
榊 裕之	豊田工業大学 学長
佐藤 文隆	京都大学 名誉教授
末松 安晴	東京工業大学 栄誉教授
仙元 隆一郎	同志社大学 名誉教授
高階 秀爾	大原美術館 館長
野依 良治	理化学研究所 理事長
広中 平祐	京都大学 名誉教授
本庶 佑	京都大学 大学院医学研究科 特任教授
鷲田 清一	大谷大学 文学部 教授

[審査委員会]

①先端技術部門

甘利 俊一 (委員長)	理化学研究所 脳科学総合研究センター 特別顧問
石田 亨	京都大学 大学院情報学研究科 教授
酒井 善則	放送大学 特任教授
田中 英彦	情報セキュリティ大学院大学 学長
中島 秀之	公立ほこだて未来大学 学長
松田 晃一	情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 所長
安浦 寛人	九州大学 理事・副学長
米澤 明憲	理化学研究所 計算科学研究機構 副機構長

②基礎科学部門

本庶 佑 (委員長)	京都大学 大学院医学研究科 特任教授
岡田 清孝	自然科学研究機構 基礎生物学研究所 所長
岡本 仁	理化学研究所 脳科学総合研究センター 副センター長
貝淵 弘三	名古屋大学 大学院医学系研究科 教授
春日 雅人	国立国際医療研究センター研究所 所長

小原 雄治 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 所長
西川 伸一 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター 副センター長
山本 雅 沖縄科学技術大学院大学 細胞シグナルユニット 教授

③思想・芸術部門

鷺田 清一 (委員長) 大谷大学 文学部 教授
猪木 武徳 青山学院大学 大学院国際政治経済学研究科 特任教授
大嶽 秀夫 同志社女子大学 現代社会学部 教授
小川 眞里子 三重大学 名誉教授
末木 文美士 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター 教授
富永 茂樹 京都大学 人文科学研究所 教授
野家 啓一 東北大学 大学院文学研究科 教授
山内 昌之 明治大学 特任教授

[専門委員会]

①先端技術部門

田中 英彦 (委員長) 情報セキュリティ大学院大学 学長
浅田 稔 大阪大学 大学院工学研究科 教授
今井 秀樹 中央大学 理工学研究所 所長
喜連川 優 東京大学 生産技術研究所 教授
高木 直史 京都大学 大学院情報学研究科 教授
田中 利幸 京都大学 大学院情報学研究科 教授
土井 美和子 (株)東芝 研究開発センター 首席技監
湊 真一 北海道大学 大学院情報科学研究科 教授

②基礎科学部門

小原 雄治 (委員長) 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 所長
岡野 栄之 慶應義塾大学 医学部 教授
篠崎 一雄 理化学研究所 植物科学研究センター センター長
高橋 淑子 京都大学 大学院理学研究科 教授
武藤 誠 京都大学 大学院医学研究科 教授
仲野 徹 大阪大学 大学院生命機能研究科 教授
成宮 周 京都大学 大学院医学研究科 教授
山本 一彦 東京大学 大学院医学系研究科 教授

③思想・芸術部門

野家 啓一 (委員長) 東北大学 大学院文学研究科 教授
井野瀬 久美恵 甲南大学 文学部 学部長
大竹 文雄 大阪大学 社会経済研究所 教授
荻部 直 東京大学 大学院法学政治学研究科 教授
谷川 渥 國學院大學 文学部 教授
中島 秀人 東京工業大学 大学院社会理工学研究科 教授
中畑 正志 京都大学 大学院文学研究科 教授
吉見 俊哉 東京大学 大学院情報学環 教授

2. 第28回(2012)京都賞授賞式及び関連行事の開催

(1) 受賞者歓迎レセプション

日 時：平成24年11月9日(金) 18:30
場 所：京都ホテルオークラ
主 催：京都府、京都市、稲盛財団
貴 賓：高円宮妃久子殿下(稲盛財団名誉総裁)
内 容：受賞者夫妻の入洛を歓迎し、レセプションを開催した。

(2) 第28回(2012)京都賞授賞式

日 時：平成24年11月10日(土) 15:00
場 所：国立京都国際会館 大会議場
貴 賓：高円宮妃久子殿下(稲盛財団名誉総裁)
受 賞 者：アイバン・エドワード・サザランド博士(先端技術部門)
大隅 良典 博士(基礎科学部門)
ガヤトリ・チャクラヴォルティ・スピヴァク教授(思想・芸術部門)
出席要人：パトリック・J・リネハン 在大阪・神戸アメリカ総領事
安達 健祐 経済産業事務次官
ヴィカース・スワループ 在大阪・神戸インド総領事
大使・総領事関係者 35名
国会議員関係者 10名
学術・文化機関の長 33名
出席者数：1,700名
祝 辞：バラク・H・オバマ アメリカ合衆国大統領
野田 佳彦 内閣総理大臣
プラナブ・クマール・ムカルジー インド共和国大統領
内 容：高円宮妃久子殿下ご臨席のもと、国内及び海外から多くの招待者を迎え授賞式を開催した。式典では、井村裕夫会長から受賞者へ京都賞メダルとディプロマ、賞金5,000万円が贈られ、受賞者は受賞にあたってのスピーチを行なった。また、内閣総理大臣をはじめ各受賞国元首から祝辞が寄せられ、受賞者の栄誉を讃えた。

(3) 晩餐会

日 時：平成24年11月10日(土) 18:15
場 所：グランドプリンスホテル京都
貴 賓：高円宮妃久子殿下(稲盛財団名誉総裁)
出席者数：820名
内 容：授賞式に続いて、高円宮妃久子殿下ご臨席のもと晩餐会を開催し、多くの出席者が受賞者を祝福した。

(4) 記念講演会

日 時：平成24年11月11日(日) 13:00
場 所：国立京都国際会館 大会議場
出席者数：1,500名

演 題：「ものの見え方」 アイバン・エドワード・サザランド博士
「酵母から見えてきたオートファジーの世界
—細胞内リサイクルシステム—」 大隅 良典 博士
「いくつもの声」 ガヤトリ・チャクラヴォルティ・スピヴァク教授

内 容：受賞者が上記のテーマで講演を行い、自らの研究や創作を通じて培われた
人生観や世界観を語った。

後 援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会
京都商工会議所、京都新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社
日本経済新聞社、産経新聞社、共同通信社、時事通信社、NHK
KBS 京都、エフエム京都、大学コンソーシアム京都

(5) 和輪庵夕食会

日 時：平成 24 年 11 月 11 日（日）18:30
場 所：和輪庵
内 容：受賞者と受賞者家族を囲んで、懇親夕食会を開催した。

(6) ワークショップ

日 時：平成 24 年 11 月 12 日（月）13:00
場 所：国立京都国際会館
内 容：部門ごとに、受賞者の講演をはじめ、研究者や専門家を交えての研究発表
やパネルディスカッションを行なった。
後 援：京都府、京都市、NHK

①先端技術部門シンポジウム「コンピュータグラフィックスとバーチャルリアリティ ～その原点から、未来展開を考える～」

出席者数：260 名
協 賛：映像情報メディア学会、画像情報教育振興協会（CG-ARTS 協会）、芸術
科学会、情報処理学会、電子情報通信学会、日本バーチャルリアリティ学会

②基礎科学部門シンポジウム「オートファジーの 50 年」

出席者数：160 名
協 賛：日本細胞生物学会、日本植物学会、日本植物生理学会、日本生化学会、
日本分子生物学会

③思想・芸術部門シンポジウム「翻訳という営みと言葉のあいだ

—21 世紀世界における人文学の可能性—

出席者数：290 名
協 賛：日本哲学会、日本文化人類学会

(7) 京都賞ウィーク中の関連行事

①小学生との交流

京都賞キッズ・サイエンス「子どものころからエンジニア！」

日 時：平成 24 年 11 月 13 日（火）14:00
場 所：京都大学 稲盛財団記念館

講 師：アイバン・エドワード・サザランド博士

出席者数：京都市内の小学生約 130 名

内 容：コンピュータグラフィックスアートで活躍されている河口洋一郎氏（東京大学大学院情報学環教授）から最新の CG の魅力についての紹介があり、続いて、サザランド博士が科学との出会いの話や、さまざまな「実験」を通して、科学の不思議やおもしろさを伝えた。

②高校生との交流

A. 京都賞生物特別講義 「科学する心ー発見の喜びー」

日 時：平成 24 年 11 月 14 日（水）14:00

場 所：京都大学 芝蘭会館

講 師：大隅 良典 博士

出席者数：京都府内 5 校の高校生約 200 名

内 容：大隅博士が、学生時代の話から、オートファジーの研究に至るまでの道のり、さらに今後の研究についてなど幅広いテーマで語った。また、この講座には、生徒達も積極的に参加し、質疑応答の司会進行役も生徒が行った。

B. 京都賞学生フォーラム「シミュレーションと現実世界」

日 時：平成 24 年 11 月 15 日（木）14:00

場 所：京都府立府民ホール アルティ

講 師：アイバン・エドワード・サザランド博士

出席者数：京都府内 8 校の高校生約 380 名

内 容：CG 番組制作をてがけている中谷日出氏（NHK 解説委員）によるデジタルの最前線についての紹介に引き続き、サザランド博士が講義を行った。講義後には、生徒からたくさんの質問が寄せられ、活発な質疑応答が行われた。

③学生との交流

京都賞学生フォーラム「グローバル化の限界を超える想像力：

未来共生に向けて何を「学び」、何を「教える」のか」

日 時：平成 24 年 11 月 14 日（水）14:00

場 所：大阪大学会館（豊中キャンパス）

講 師：ガヤトリ・チャクラヴォルティ・スピヴァク教授

出席者数：大阪大学の学生、院生、研究者など約 290 名

内 容：このフォーラムは、大阪大学での初の京都賞行事として、大阪大学と稲盛財団の共催で開催された。スピヴァク教授は、文芸批評家・教育家としての立場から、大学で身につけるべき真の教養とは何かについて語った。

（8）広報

①テレビによる報道

NHK ニュースでは授賞式の模様が全国に報道された。また NHK World の「NEWSLINE」ではアイバン・エドワード・サザランド博士のインタビュー映像が放映された。（NHK 及び民放各社計 7 番組で授賞式及び関連行事の様子が放映）

②新聞・雑誌等による報道

全国紙をはじめ通信社の取材配信や海外マスコミによる取材があり、関連記事が国内 26 紙（45 件）、海外でも WEB 版を中心に多数掲載された。また京都新聞、読売新聞に京都賞受賞者の特集記事が掲載された。

（9）米国での関連行事

「2013 年京都賞シンポジウム」の開催協力

開催日：平成 25 年 3 月 12 日（火）～14 日（木）

場所：カリフォルニア州サンディエゴ市

主催：京都賞シンポジウム組織

共催：サンディエゴ州立大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校、
サンディエゴ大学、ポイント・ロマ・ナザレン大学、稲盛財団

出席者数：1,800 名

内容：第 28 回京都賞受賞者による講演会及び慈善晚餐会の開催に協力した。

3. 第 29 回(2013)京都賞に関する事項

（1）京都賞審査機関委員の委嘱

平成 24 年 3 月 16 日開催の定時理事会において選任された第 29 回(2013)京都賞審査機関委員に対し、平成 24 年 11 月 11 日開催の第 29 回(2013)京都賞審査機関合同会議において正式に委嘱を行った。

（2）推薦依頼書の発送

推薦依頼名簿に基づいて、国内、海外の有識者に対し、推薦依頼書を平成 24 年 6 月下旬に発送した。

（3）推薦の受付

平成 24 年 9 月 20 日をもって推薦書の受付を締め切った。

（4）京都賞審査機関による審査

各部門専門委員会を計 12 回、審査委員会を計 4 回開催した。

（審査委員会 2 回と京都賞委員会については平成 25 年度に開催）

4. 第 30 回(2014)京都賞に関する事項

（1）授賞対象分野の決定

平成 25 年 3 月 22 日開催の定時理事会において、第 30 回(2014)京都賞授賞対象分野を次の通り決定した。

先端技術部門：バイオテクノロジー及びメディカルテクノロジー

Biotechnology and Medical Technology

基礎科学部門：数理科学（純粋数学を含む）

Mathematical Sciences (including Pure Mathematics)

思想・芸術部門：美術（絵画・彫刻・工芸・建築・デザイン）

Arts (Painting, Sculpture, Craft, Architecture, Design)

（２）京都賞審査機関委員の決定

平成 25 年 3 月 22 日開催の定時理事会において、第 30 回(2014)京都賞審査機関委員を選任した。

Ⅱ. 助成事業

1. 平成 24 年度研究助成に関する事項

（１）平成 24 年度研究助成金贈呈式の開催

開催日：平成 24 年 4 月 14 日（土）15:00

場所：グランドプリンスホテル京都

出席者数：150 名

内容：平成 24 年 3 月 16 日の定時理事会において承認された 52 件に対し、総額 5,200 万円の贈呈を行なった。また、贈呈式に先立って、第 16 回盛和スカラズソサエティ総会が開催され、3S 会員でもある京都大学大学院理学研究科 余田成男教授に「数値天気予報と気候予測—不確実性を伴う予測」というテーマでご講演いただいた。

※別表 1「平成 24 年度研究助成対象者並びに研究題目」を参照

2. 平成 25 年度研究助成に関する事項

（１）募集要項の発送

平成 24 年 5 月下旬に、全国国立大学法人、公立大学（選抜）、私立大学（選抜）、大学共同利用機関法人・その他研究機関（選抜）の合計 140 大学・機関宛に対して研究助成募集要項と申請書を発送し、募集した。

（２）応募の締切

平成 24 年 7 月 25 日をもって申請書の受付を締め切り、415 件の応募を得た。この応募分について、各委員による予備選考を行なった。

（３）研究助成選考委員会による選考

平成 24 年 12 月 8 日と 12 月 9 日に研究助成選考委員会を開催し、50 件 5,000 万円の助成対象者を選考した。

（４）研究助成対象者の決定と発表

平成 25 年 3 月 22 日開催の定時理事会において、平成 25 年度研究助成対象者及び助成金額を決定し、プレス発表を行なった。

※別表 2「平成 25 年度研究助成対象者並びに研究題目」を参照

(5) 研究助成選考委員の公表

助成対象者の発表に併せて、平成 25 年度研究助成選考委員を下記の通り公表した。
(役職は公表時現在)

榊 裕之 (委員長) 豊田工業大学 学長

[自然科学系]

甘利 俊一 理化学研究所 脳科学総合研究センター 特別顧問

巖佐 庸 九州大学 大学院理学研究院 教授

梶山 千里 福岡女子大学 理事長・学長

佐藤 文隆 京都大学 名誉教授

中西 重忠 公益財団法人大阪バイオサイエンス研究所 所長

西川 伸一 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター 副センター長

野田 進 京都大学 大学院工学研究科 教授

広中 平祐 京都大学 名誉教授

本庶 佑 静岡県公立大学法人 理事長

村上 正紀 学校法人立命館 副総長

湯本 貴和 京都大学 霊長類研究所 教授

[人文・社会科学系]

佐和 隆光 滋賀大学 学長

仙元 隆一郎 同志社大学 名誉教授

山室 信一 京都大学 人文科学研究所 教授

横山 俊夫 滋賀大学 理事・副学長

鷺田 清一 大谷大学 文学部 教授

3. 平成 26 年度研究助成に関する事項

(1) 研究助成選考委員の決定

平成 25 年 3 月 22 日の定時理事会において、平成 26 年度研究助成選考委員を選任した。

4. 平成 24 年度特別助成に関する事項

(1) 特別助成の交付

次の案件 1 件につき、特別助成審査委員会にて審議の上、平成 24 年 6 月 22 日開催の定時理事会において決定した。この助成金は、平成 25 年 3 月 31 日までに対象者に交付された。

助成目的	申請者	助成金額 (円)
国連合唱団日本公演	国連合唱団東アジア公演実行委員会 特命全権実行委員長 高橋 伸二	500,000
合計：1 件		500,000

特別助成審査委員は、下記の通り。（役職は選任時現在）

榊 裕之（委員長） 豊田工業大学 学長
梶山 千里 福岡女子大学 理事長・学長
広中 平祐 京都大学 名誉教授

5. 平成 25 年度特別助成に関する事項

（1）特別助成審査委員の決定

平成 25 年 3 月 22 日の定時理事会において、平成 25 年度特別助成審査委員を選任した。

Ⅲ. 社会啓発事業

1. イナモリフェローの活動

（1）2011 年度イナモリフェロー

①後期研修への派遣

フェロー3名を、米国ワシントン D.C.の CSIS（戦略国際問題研究所）内の教育研究機関「アブシャイア・イナモリ リーダーシップアカデミー(AILA)」の「AILA インターナショナル フェローシップ プログラム」後期研修に派遣した。

（2）2012 年度イナモリフェロー

①フェローの決定

フェローの公募を行い、書類選考、面接審査を経て、下記の 5 氏に決定した。
（肩書は決定時現在）

岩崎 希世 フリーアナウンサー

片山 健太郎 IMF（国際通貨基金） 職員

佐藤 高廣 京セラ・ドキュメント・ソリューションズ・フランス
ゼネラルマネージャー

佐野 徹 日本テレビ放送網株式会社 海外ビジネス推進室 海外事業担当部長

松野 慎治 株式会社京都銀行 証券国際部アジアデスク

②前期研修への派遣

フェロー5名を、CSIS 内の「アブシャイア・イナモリ リーダーシップアカデミー(AILA)」の「AILA インターナショナル フェローシップ プログラム」前期研修に派遣した。

2. 米国「倫理と叡智のための稲盛国際センター」に関する活動

平成 24 年 9 月 6 日（木）、米国オハイオ州のケースウエスタンリザーブ大学で開催された、第 5 回(2012)稲盛倫理賞授賞式並びに関連行事の開催協力をはじめ、同センターの活動を支援した。また、平成 23 年 11 月 10 日付、稲盛倫理賞基金への追加

寄附に関する合意書に基づき、当基金の強化を目的として、ケースウエスタンリザーブ大学に対して 100 万ドルの寄附を実施した。

3. 国際相互理解の増進及び学術振興に寄与する活動

(1) 米国京都賞受賞者シンポジウム共催大学への寄附

平成 23 年 4 月に調印した「京都賞受賞者シンポジウム共催大学との特別寄附金合意書」に基づき、第 2 回 20 万ドル（4 大学に対し各 5 万ドル）の寄附を実施した。
（4 年間で 4 大学へ総額 80 万ドルを寄附予定）

(2) 大阪大学大学院寄附講座への寄附

大阪大学大学院国際公共政策研究科が平成 24 年 4 月 1 日設置した寄附講座「グローバルな公共倫理とソーシャル・イノベーション（稲盛財団）」に対して、第 1 回 3,100 万円の寄附を実施した。（5 年間で総額 1 億 5,500 万円を寄附予定）

IV. その他の活動

1. 会議の開催状況

理事会、評議員会を下記の通り開催し、全ての議案が原案通りに承認された。

(1) 理事会

日	時	平成 24 年 6 月 6 日（水）
議	案	・平成 23 年度(2011)事業報告及び決算報告の件
日	時	平成 24 年 6 月 22 日（金）
議	案	・第 28 回（2012）京都賞受賞者承認の件 ・京セラ株式会社第 58 期定時株主総会議決権行使の件 ・平成 24 年度(2012)助成事業特別助成対象者並びに助成金額承認の件
報告事項		・ケースウエスタンリザーブ大学「第 5 回稲盛倫理賞」受賞者の決定と授賞式開催の件 ・主要日程の件 ・サンディエゴでの 2012 年京都賞シンポジウムの件 ・「京大日食展ーコロナ百万度を超えて」協賛の件
日	時	平成 25 年 3 月 22 日（金）
議	案	・平成 25 年度(2013)事業計画及び収支予算の件 ・第 30 回(2014)京都賞授賞対象分野の件 ・第 30 回(2014)京都賞審査に係わる委員選任の件 ・平成 25 年度(2013)助成事業研究助成対象者並びに助成金額承認の件 ・平成 26 年度(2014)助成事業研究助成選考に係わる委員選任の件 ・平成 25 年度(2013)助成事業特別助成審査に係わる委員選任の件 ・第 29 回(2013)京都賞専門委員会(先端技術部門)委員選任の件 ・定時評議員会開催の件（平成 25 年 6 月）

- 報告事項
- ・第 29 回(2013)京都賞推薦状況報告の件
 - ・ケースウエスタンリザーブ大学「第 5 回稲盛倫理賞」授賞式開催報告及び「第 6 回稲盛倫理賞」受賞者決定の件
 - ・主要日程の件

(2) 評議員会

- 日 時 平成 24 年 6 月 22 日 (金)
- 議 案
- ・平成 23 年度(2011)事業報告及び決算報告の件
 - ・評議員選任の件
- 報告事項
- ・ケースウエスタンリザーブ大学「第 5 回稲盛倫理賞」受賞者の決定と授賞式開催の件
 - ・主要日程の件
 - ・サンディエゴでの 2012 年京都賞シンポジウムの件
 - ・「京大日食展ーコロナ百万度を超えて」協賛の件

2. 委員会等の開催状況

(1) 第 28 回(2012)京都賞の各委員会

開催日	名称	議題
H24. 4. 1	京都賞思想・芸術部門 第 2 回審査委員会	候補者審査
H24. 4. 15	京都賞委員会	各部門受賞者審査

(2) 第 29 回(2013)京都賞及び平成 25 年度助成事業の各委員会

開催日	名称	議題
H24. 11. 11	京都賞審査機関合同委員会	審査基本方針決定
H24. 12. 8	研究助成選考委員会 自然科学系分科会	助成対象者選考
H24. 12. 9	研究助成選考委員会 人文・社会科学系分科会	助成対象者選考
H25. 1. 12	京都賞先端技術部門 第 1 回専門委員会	候補者審査
H25. 1. 13	京都賞基礎科学部門 第 1 回専門委員会	候補者審査
H25. 1. 26	京都賞思想・芸術部門 第 1 回専門委員会	候補者審査
H25. 1. 27	京都賞先端技術部門 第 2 回専門委員会	候補者審査
H25. 2. 2	京都賞基礎科学部門 第 2 回専門委員会	候補者審査
H25. 2. 3	京都賞思想・芸術部門 第 2 回専門委員会	候補者審査
H25. 2. 9	京都賞先端技術部門 第 3 回専門委員会	候補者審査
H25. 2. 16	京都賞基礎科学部門 第 3 回専門委員会	候補者審査
H25. 2. 23	京都賞先端技術部門 第 4 回専門委員会	候補者審査
H25. 2. 24	京都賞思想・芸術部門 第 3 回専門委員会	候補者審査
H25. 3. 2	京都賞基礎科学部門 第 4 回専門委員会	候補者審査
H25. 3. 9	京都賞思想・芸術部門 第 4 回専門委員会	候補者審査
H25. 3. 16	京都賞先端技術部門 第 1 回審査委員会	候補者審査
H25. 3. 23	京都賞基礎科学部門 第 1 回審査委員会	候補者審査
H25. 3. 24	京都賞思想・芸術部門 第 1 回審査委員会	候補者審査

H25. 3. 30	京都賞先端技術部門 第 2 回審査委員会	候補者審査
※以下は平成 25 年度に実施		
H25. 4. 6	京都賞基礎科学部門 第 2 回審査委員会	候補者審査
H25. 4. 7	京都賞思想・芸術部門 第 2 回審査委員会	候補者審査
H25. 4. 20	京都賞委員会	各部門受賞者審査

3. 広報活動

(1) 記者発表の実施

実施日	内容	場所
H24. 4. 10	平成 24 年度助成金贈呈式及び第 16 回盛和スカラーズソサエティ総会取材要項：資料配布	関係記者クラブ
H24. 6. 13	第 28 回京都賞受賞者発表記者会見案内：資料配布	関係記者クラブ
H24. 6. 22	第 28 回京都賞受賞者発表：記者会見	京都大学 稲盛財団記念館
H24. 9. 24	第 28 回京都賞ウイーク行事概要：資料配布	関係記者クラブ
H24. 10. 15	第 28 回京都賞青少年育成プログラム概要：資料配布	関係記者クラブ
H24. 11. 6	第 28 回京都賞ウイーク取材要項：資料配布	関係記者クラブ
H24. 11. 10	第 28 回京都賞受賞者共同記者会見	国立京都国際会館
H25. 2. 1	2013 年イナモリフェロー募集：資料配布	関係記者クラブ
H25. 2. 19	「第 6 回稲盛倫理賞」受賞者発表：資料配布	関係記者クラブ
H25. 3. 7	2013 年京都賞シンポジウム開催概要：資料配布	関係記者クラブ
H25. 3. 22	平成 25 年度研究助成対象者発表：資料配布	関係記者クラブ

(2) 刊行物の発行

下記の刊行物を発行し、関係先に配布した。

発行日	内容	発行部数
H24. 5	稲盛財団ニュース 77 号	2,500 部
H24. 7	稲盛財団ニュース 78 号	2,600 部
H24. 8	盛和スカラーズソサエティ会報 16 号	1,300 部
H24. 8	The Inamori Foundation Newsletter 29 号	1,400 部
H25. 1	稲盛財団ニュース 79 号	3,500 部
H25. 2	The Inamori Foundation Newsletter 30 号	1,400 部

(3) 電子メールニュースの配信

国内外のメールニュース登録者約 4,500 名（平成 25 年 3 月時点）に対し、電子メールニュースを計 13 回配信した。

(4) ウェブサイトの運営

「稲盛財団ホームページ」、「京都賞行事紹介サイト」、「京都賞 e-Museum (歴代受賞者紹介)」の3サイト間の相互リンクを強化するとともに、歴代受賞者のライフヒストリーなどのコンテンツの充実を行った。

(5) 京大日食展「コロナ百万度を超えて」への出展

平成 24 年 4 月 25 日～5 月 20 日、京都大学総合博物館で開催された京大日食展「コロナ百万度を超えて」に出展した。その中の「京にゆかりの宇宙科学者たち」のコーナーでは、京都賞基礎科学部門「地球科学・宇宙科学」分野の歴代受賞者であるユージン・ニューマン・パーカー博士、林忠四郎博士、ヤン・ヘンドリック・オールト博士、ラシッド・アリエヴィッチ・スニヤエフ博士の業績や京都賞ウィークの各行事を紹介するパネルの展示を行った。

4. 理事、監事、評議員等の選任及び異動

(1) 評議員の選任

平成 24 年 6 月 22 日開催の定時評議員会において、下記の通り評議員 1 名の追加選任を行った。これにより評議員は 22 名となった。

(役職は選任時現在)

評議員 鷺田 清一 大谷大学 文学部 教授

【別表1】

平成24年度研究助成対象者並びに研究題目

100万円/件（役職は贈呈時現在）

	氏名・所属先	研究題目
自然科学系	九州大学 生体防御医学研究所 准教授 石谷 太	<i>in vivo</i> イメージングを用いた Wnt/ β カテニンシグナルの機能と制御の解析
	神戸大学 大学院医学研究科 特命助教 植村 明嘉	低分子量G蛋白質RhoJによる血管内皮細胞運動の 制御機構の解明
	慶應義塾大学 理工学部 准教授 荻原 直道	ニホンザルの二足歩行から探るヒトの直立二足歩行の 起源と進化
	順天堂大学 大学院医学研究科 准教授 奥野 利明	新規脂質メディエーター12-HHTの抗炎症作用
	京都大学 物質-細胞統合システム拠点 特定拠点助教 Peter Carlton	超解像度顕微鏡を用いたヒトiPS細胞における エピジェネティック修飾の1細胞解析学
	慶應義塾大学 医学部 専任講師 掛川 渉	記憶・学習を担う脳神経回路の発達加齢変化 -新規D-セリンシグナリングの解明と制御
	東京大学 分子細胞生物学研究所 講師 川崎 善博	大腸癌発症におけるc-Myc標的mRNA型ncRNAの機能解析
	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 助教 北野 健	老化原因のDNA構造をほどく遺伝病タンパク質の 新規ドメイン構造解析
	京都大学 大学院薬学研究科 助教 木村 郁夫	短鎖脂肪酸受容体と生活習慣病：腸内細菌を介した 食事性栄養認識受容体によるエネルギー調節機構の解明
	理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター チームリーダー 倉永 英里奈	生体レベルにおける集団細胞移動メカニズムの解明
	福井大学 大学院工学研究科 准教授 小西 慶幸	神経細胞の形態維持に関わる新規細胞内システムの解明
	東北大学 大学院理学研究科 准教授 小林 真一	保型表現と岩澤主予想
	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 助教 小柳 潤	高効率長寿命メカニカルバッテリーの創製
	広島大学 大学院医歯薬学総合研究科 助教 齋藤 敦	小胞体を起点とした生体機能制御機構の全貌解明
	大阪大学 大学院工学研究科 准教授 齊藤 結花	液中の3次元ナノスケールを見る光学顕微鏡の開発
	東京学芸大学 教育学部 准教授 佐藤 たまき	北海道の白亜系から産出する首長竜化石の記載・ 系統分類学と野外調査
	東京工業大学 大学院理工学研究科 准教授 下山 裕介	二酸化炭素中における溶媒蒸発の制御により作製した 薄膜ドラッグデリバリーにおける医薬物質の溶解挙動の解明
九州大学 生体防御医学研究所 准教授 鈴木 淳史	皮膚細胞から肝細胞への運命転換機構の解析	

	氏名・所属先	研究題目
自然科学系	京都大学 大学院薬学研究科 特定助教 高橋 清大 (平成23年度伯楽対象者)	ウイルスセンサーRIG-Iの活性化機構の解明
	大阪大学 大学院理学研究科 助教 田中 啓文	有機ナノ粒子吸着によるグラフェンナノリボンの電気特性制御への挑戦
	長岡技術科学大学 産学融合トップランナー養成センター 産学融合特任准教授 築地 真也	生命科学と創薬の新基盤となる 細胞内蛋白質化学標識技術の確立
	奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科 助教 寺田 佳世	アミノ基含有らせんポリアセチレンの 温度応答性二次構造変化と遺伝子キャリアへの展開
	富山大学 先端ライフサイエンス研究拠点 特命助教 中川 崇	老化関連分子Sirtuinによる新規代謝産物 O-acetyl-ADP-Riboseの生理活性の解析
	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授 長里 千香子	多細胞体制を支える褐藻類の細胞間マトリックスの 構造と機能
	電気通信大学 大学院情報理工学研究科 准教授 奈良 高明	てんかん病巣部検出に向けた 脳回の神経電流源再構成逆問題に対する代数解法
	群馬大学 大学院工学研究科 助教 浜名 誠	依存型による安心・安全・高信頼ソフトウェアの基礎理論
	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 准教授 平山 順	活性酸素シグナルによる概日リズム制御の分子機構の解明
	静岡大学 工学部 助教 藤井 朋之	構造材料の応力腐食割れメカニズムの解明と 環境耐性材料設計指針
	鳥取大学 地域学部 准教授 寶來 佐和子	ベトナムE-wasteリサイクル地域における ヒトへの重金属暴露実態と健康影響評価
	大阪府立大学 21世紀科学研究機構 特別講師 牧浦 理恵	金属錯体の3次元配列制御による 高効率光電変換ナノ材料の創製
	電気通信大学 先端領域教育研究センター 特任准教授 松浦 基晴	半導体量子ドット技術による高性能光信号処理技術の研究
	名古屋大学 大学院理学研究科 准教授 松浦 能行	核-細胞質間高分子輸送制御による 生理機能調節機構の構造生物学的研究
	札幌医科大学 医学部 助教 丸山 玲緒	t(4:14)転座を有する骨髄腫症例における ヒストン修飾異常の網羅的解析
	筑波大学 生命環境系 准教授 三浦 謙治	SUMO化E3酵素SIZ1における植物特有 PHDドメインを介したエピジェネティック制御
	東京大学 大学院総合文化研究科 助教 森長 真一	変動環境下における植物集団の進化的応答のゲノム基盤
筑波大学 生命環境系 准教授 谷口 俊介	ウニ胚前端部に存在する不動繊毛の機能と形成メカニズム	

	氏名・所属先	研究題目
自然科学系	京都大学 大学院理学研究科 准教授 矢野 孝次	マルコフ連鎖の流れおよび情報系の理論の展開とその応用
	立命館大学 情報理工学部 教授 山下 茂	必要最小限の機能の書き換えが可能な回路において設計仕様を効率的に変更するための設計理論の確立
	理化学研究所 加藤分子物性研究室 研究員 山下 穰	極低温における量子スピン液体状態相近傍の量子臨界点の探索
	京都大学 大学院理学研究科 助教 山田 鉄兵	配位高分子による新規固体酸の創成と応用展開
	九州大学 大学院理学研究院 助教 山脇 兆史	無脊椎動物における行動企画の神経基盤： 何をいつ行うべきか？
		小計 41件
人文・社会科学系	神戸大学 大学院人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎	ポスト・モンゴル期西アジアの国際関係に関する基礎的研究： マムルーク朝・ティムール朝関係を中心に
	東北大学 大学院環境科学研究科 助手 枝村 一磨	有害物質の排出を考慮した生産関数の推計
	愛媛大学 法文学部 准教授 胡 光	四国八十八ヶ所の成立と発展
	関西大学 法学部 教授 大津留 智恵子	アメリカ外交が産んだ難民と受け入れ社会の確執
	京都大学 次世代研究者育成センター 特定助教 川名 雄一郎	十九世紀イギリスにおける性格の科学の歴史的意義
	名古屋大学 高等研究院 特任准教授 蔡 大鵬	突発的なネガティブショック発生時の、公的資金の注入による企業への最適な救済策と国際協調の在り方
	東京大学 大学院総合文化研究科 准教授 佐藤 光 (平成23年度伯楽対象者)	多文化共生の哲学を探究した人々 ー大正期の柳宗悦とウィリアム・ブレイクを考える
	京都大学 アフリカ地域研究資料センター 准教授 高田 明	サヴァンナの視覚文化：サン社会におけるジェスチャー・コミュニケーションに関する人類学的研究
	立命館大学 文学部 准教授 長澤 麻子	公共圏における「美」の機能： ドイツ・ワイマール時代における新聞文芸欄を中心に
	九州大学 大学院法学研究院 准教授 原田 大樹	グローバルな政策実現過程の成立条件と主権国家の統治機構への影響 ー原子力安全分野を素材として
日本大学 生物資源科学部 教授 横山 安紀子	言語コミュニケーションにおける「音韻象徴性」の効果： 異感覚実験とその分析から	
		小計 11件
		合計 52件

【別表2】

平成25年度研究助成対象者並びに研究題目

100万円/件（役職は承認時現在）

	対象者	研究題目
自然科学系	神戸大学 大学院医学研究科 准教授 井垣 達史	細胞競合によるHippo経路制御とがん制御場構築原理の解明
	名古屋工業大学 工学部 准教授 泉 泰介	計算困難問題への符号理論的アプローチ
	東京大学 大学院理学系研究科 准教授 伊藤 恭子	植物における維管束始原細胞形成機構の解析
	九州大学 大学院システム情報科学研究所 准教授 稲永 俊介	高速な検索・編集操作を実現するデータ圧縮に関する基盤研究
	富山大学 先端ライフサイエンス拠点 特命助教 伊野部 智由	プロテアソームによる蛋白質分解の新規制御法の開発
	金沢大学 理工学域 教授 Richard Wong	核膜孔複合体因子によるエピジェネティック制御機構の解析
	千葉大学 大学院理学研究科 准教授 大坪 紀之	数論的なL関数とモチーフ的コホモロジー
	九州大学 大学院医学研究院 助教 大寺 秀典	ミトコンドリアの分裂を制御する新規因子の同定と機能解析
	大阪大学 大学院工学研究科 助教 小関 泰之	高い分子識別能を有する多波長・指紋領域誘導ラマン顕微鏡による無標識生体イメージング
	立命館大学 薬学部 助教 河野 貴子	細胞遊走における細胞骨格の時空間的統合制御システムの解明
	慶應義塾大学 医学部 助教(有期) 木須 伊織	霊長類子宮移植モデルを用いた子宮性不妊女性に対する妊孕性再建技術の開発～子宮移植臨床応用に向けて～
	熊本大学 大学院自然科学研究科 准教授 久保田 章亀	超低損失ダイヤモンドパワーデバイス製作のための高精度加工法の開発
	北海道大学 創成研究機構 テニュアトラック特任助教 小泉 逸郎	個体群動態と遺伝子組成の時空間変異：大規模長期データによる実証研究
	北海道大学 大学院理学研究院 助教 小門 憲太	超分子的な分子間相互作用を用いた高分子の温度応答性自在制御
	大阪大学 産業科学研究所 助教 佐々木 聡	トポロジカル超伝導体ジョセフソン接合素子によるトポロジカル超伝導発現機構の解明
	群馬大学 先端科学研究指導者育成ユニット 助教 定方 哲史	自閉症様行動を示すモデルマウスを用いた自閉症発症機序の解明
	慶應義塾大学 医学部 助教 佐藤 薫	小分子RNAを介した転移因子抑制に関与する核内複合体の分子機能解明
	東京理科大学 理工学部 講師 四反田 功	微生物の走光性を模倣した光の照射方向に遊泳する光駆動型ナノモーターの開発
	東京工業大学 大学院生命理工学研究科 准教授 鈴木 崇之	脳内の中枢シナプス形成と可塑性を決定する分子メカニズムの解明
	山形大学 大学院理工学研究科 助教 帯刀 陽子	分子性導体からなるアクチュエーターの作製とその物性評価

	対象者	研究題目
自然科学系	東北大学 金属材料研究所 助教 趙 研	疑似生体環境下での力学的特性および細胞毒性の評価に基づいた低コストTi-Mn合金の開発
	名古屋工業大学 大学院工学研究科 准教授 津邑 公暁	ガーベジコレクションを支援する 低電力モバイルプロセッサの研究
	長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 助教 土居 裕和	ヒト生殖シグナル検知を司る神経学的機序の時空間動態解析
	広島大学 大学院教育学研究科 講師 富川 光	中国地方における無脊椎動物の系統地理パターンの解明と レフュジア仮説の検証
	上智大学 理工学部 准教授 中岡 俊裕	2素子間量子情報転送のための サイドゲート型量子もつれダイオードの作製と基盤技術の開拓
	長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 テニュアトラック助教 中沢 由華	新規修復因子UVSSAの機能解析及び 転写共役修復開始反応の分子メカニズム解明
	山形大学 大学院理工学研究科 助教 中林 千浩	フラーレンに依存しない有機薄膜太陽電池創製に向けた 電子輸送材料の開発
	宮崎大学 工学教育研究部 准教授 西岡 賢祐	国産火山灰堆積層シラスを原料とし集光太陽光をエネルギー源 とする太陽電池用金属シリコン生成法の開発
	埼玉大学 大学院理工学研究科 准教授 長谷川 靖洋	単結晶ビスマスナノワイヤー熱電変換素子の熱伝導率測定
	東北大学 多元物質科学研究所 助教 平井 悠司	昆虫のプラストロンを模倣した 水中での酸素補給デバイスの開発
	群馬大学 先端科学研究指導者育成ユニット 助教 平川 秀忠	細菌の細胞間情報伝達と 新規制御因子アンチセンスRNAの機能解明
	九州大学 大学院理学研究院 助教 広津 崇亮	匂い物質に対する嗜好性行動が逆転するしくみ
	東北大学 多元物質科学研究所 助教 松井 淳	大面積配向ナノチューブナノ薄膜の構築と ラビングレス透明電極への展開
	高知大学 教育研究部 特任助教 三浦 収 (平成25年度伯楽対象者)	干潟生物の攪乱と回復過程ー東日本大震災前後の ウミナガリの生態的・遺伝的変遷
	東京大学 地震研究所 助教 三宅 弘恵	想定外の地震災害に備える震源モデル化手法の開拓
	信州大学 理学部 准教授 宮丸 文章	屈折率の時間界面生成によるテラヘルツ波の 周波数変調素子の開発
	東京大学 生産技術研究所 助教 守谷 頼	非磁性体を用いた磁壁の検出方法の確立と 不揮発メモリへの応用
	北海道大学 大学院獣医学研究科 助教 柳川 洋二郎	ニホンジカ高密度個体群における繁殖特性の至近要因となる 生理学的特徴の解明
岡山大学 大学院自然科学研究科 助教 吉井 大志	社会性コミュニケーションは昆虫概日行動リズムの 同調因子か？	

	対象者	研究題目	
	同志社大学 高等研究教育機構 特定任用研究員(助教) 渡辺 祥司	光応答性非天然アミノ酸を用いた神経細胞の カリウムチャネルのクラスター形成に関わる 新規分子の挑戦的探索	
			小計 40件
人文・ 社会科学系	東北大学 大学院法学研究科 准教授 蘆立 順美	商標の「出所」概念の再検討 ーライセンス契約の多様化に応じた商標権保護のあり方ー	
	筑波大学 システム情報系 講師 石川 竜一郎	時価会計制度がもたらす金融危機波及に関する研究	
	横浜市立大学 グローバル都市協力研究センター 特任助教 柏原 沙織	アジアの歴史文化保全のまちづくりにおける 住民活動支援の仕組みづくりに向けた調査研究	
	人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 助教 熊澤 輝一	市民が専門家に語りかけるための方法論の開発 ー環境と資源のサイエンス・コミュニケーションを 題材としてー	
	東京大学 先端科学技術研究センター 助教 柴山 創太郎	大学の商業化に伴う知的財産の生産・交換モデルの 変遷に関する国際比較研究	
	京都大学 大学院法学研究科 准教授 曾我部 真裕	憲法裁判所制度の下での法と政治 ーフランス憲法院を中心として	
	宇都宮大学 国際学部 准教授 高橋 若菜	福島原発事故後の市民社会の変容 ～新潟県内の福島乳幼児・妊産婦家族と地域社会、市民社会の 交差を事例に	
	東京大学 総合研究博物館 特任助教 寺田 鮎美	ミュージアム運営論の発展的構築に向けた基礎研究 ー公共的文化資本の創造的利活用の可能性を中心に	
	横浜国立大学 大学院国際社会科学研究所 准教授 宮澤 俊昭	環境団体訴訟の法的制度設計の在り方 ー個人の権利利益に還元できない環境利益の実現に向けて	
	筑波大学 人文社会系 准教授 山澤 学	変革期における知識・思想・実践の交錯と創造	
			小計 10件
			合計 50件